



右：貴重資料を撮影し、電子化するための機材  
(関連記事：P. 2-3)

## 目次

附属図書館長就任にあたって	P.1
「知」の活用としての貴重資料	P.2-3
英語での研究発表をサポート	P.4
あなたが選んだ本が図書館に ～学生選書 2015～	P.5
NEWS 図書館からのお知らせ	P.6-7
図書館に響く歌声 ～アカペラコンサート開催～	P.8

### 小川先生 プロフィール

#### ◆略歴

1962年岡山県生まれ。工学博士（東京大学）。2000年より大阪大学大学院理学研究科物理学専攻・教授。

#### ◆趣味

おいしくて安いものを食べること、交通全般（自動車、鉄道、航空）、などなど。

#### ◆おすすめの本

菜根譚：世俗の価値を超えて / 野口定男著（鉄筆文庫、2015）

様々なものの見方や価値判断の角度を知り、若い頃に視野や倫理観を広げておくことは、創造活動を行う上で必要条件です（ただし十分条件ではありません）。そのための一冊です。

## 附属図書館長就任にあたって 新たな「知」の創造と蓄積の場へ



附属図書館長  
(財務・情報担当  
理事、副学長)

小川 哲生

「大学生は勉強しなさい」としばしば言われます。むしろ大学生だけでなく、小学生も中学生も高校生も「勉強するべきだ」と考えられていますし、「生涯学習」という言葉もあるように、人間は死ぬまで「勉強」や「学習」をするのが良いという考え方もあります。そこで大阪大学の学生さんに、「君たちはなぜ勉強するのですか?」「何のために勉強しているのですか?」と尋ねてみたいです。「ママやパパに『勉強しなさい』と言われたから」という回答はさすがに少ないとは思いますが、「国家試験に合格するため」とか「何々を習得するため」という返答が多いのではないかと予想しています。私が所属している大学院の入学試験口頭試問で、「貴君が大学院に進学したいと思うのはなぜですか?」と尋ねると、少なからぬ受験生が「大学の学部4年間では勉強が足りないと感じたので、さらに勉強したいから大学院に進学します」と、真面目な顔をして答えます。このような、一見すると殊勝で優等生に見えるような学生さんに私が伝えたいことを、ここで書いておきましょう。

「勉強」や「学習」は、自分以外の過去の人たちが今までに獲得してきた「知」を、自分の中（脳）に取り入れて定着させる活動です。先人たちが築いてきた「知」や「情報」を、自分に《インプット》する営みと言ってもいいでしょう。私がまず学生さんたちに言いたいのは、このような「インプット作業」だけで人生を終わらせてはなりません、ということです。生きるからには、生まれてきたからには、あなたしかできないことを行って、価値のある新しいこ

とを創造してください。すなわち、あなたらしい《アウトプット》や《アウトカム》を新たに産み出すことこそが、もっとも重要な生きがいであるべきです。

勉強や学習などの「インプット作業」は、その人しかできない「アウトプット作業」を行うための手段や準備です。目的と手段を入れ替えてしまわないように。勉強や学習は人生の目的ではありません。目的はあくまでも創造することです。これは、仕事として学問に携わる場合はもちろんですが、企業等で働く場合でも（どんな場合でも）成り立ちます。同時に、アウトプット作業を行うためには、インプット作業が不可欠であることも忘れてはなりません。インプット作業を軽んじたら、優れたアウトプットやアウトカムは生まれません。

高等学校までは、生徒全員が横並びでインプット作業（勉強や学習）することが中心でしたが、大学以降は、「アウトプット作業のためのインプット作業」を各自が自主的に実践し、最終的にはアウトプット作業を実行しなければなりません。そのためには、大学図書館は最適な場です。そこには、先人たちが努力の末に獲得してきた「知」や「情報」がぎっしりと集積しています。これらの「知」の集大成の中から、自分のなすべきアウトプット作業にふさわしい情報を選び出し、自分に対してしっかりインプットを行ってください。そのために、大学図書館を有効に徹底利用してください。

「アウトプットに向けてのインプット作業」という考え方によって、従来は受動的にとらえられていた勉強や学習を、目的に向けての能動的な準備プロセスだと認識し、過去の「知」を意識的に積極的に身につけ、そこで鍛えられた自分が、自分しかできないやりかたで、新しい価値を創造してください。それが若い人たちの使命です。そのために、大学図書館を最大限に有効利用して、創造する人間として社会に羽ばたいて欲しいと願っています。そして、皆さんが新たに創造した「知」が、大学図書館に新たに蓄積され、それらが後輩たちのインプット作業の糧となって、また新たな「知」が生み出され、人類や社会はらせん状に進展します。

# 大阪大学職員研修 ～「知」の活用としての貴重資料～

## 適塾 ご案内

適塾の建物の遺構は現在も保存され、一般公開されています。

- 開館時間  
午前10時～午後4時
- 休館日  
・月曜日（国民の祝日の場合は開館）  
・国民の祝日の翌日（土・日・祝日の場合は開館）  
・年末年始（12月28日～1月4日）
- 参観料  
一般 260円  
大学生、高校生 140円  
中学生、小学生 無料
- 場所  
大阪府中央区北浜3丁目3番8号
- アクセス  
・京阪電車 淀屋橋駅、北浜駅から徒歩5分  
・地下鉄御堂筋線 淀屋橋駅から徒歩5分

2015年10月28日、総合図書館6階図書館ホールにて、大阪大学適塾記念センター、国文学研究資料館古典籍共同研究事業センターとの共催で「図書館職員研修～「知」の活用としての貴重資料～」が開催されました。この研修では、株式会社大入、株式会社堀内カラーのご協力のもと、貴重資料の扱い方、貴重資料の保存・修復、電子化とその発信について専門家の方からお話しいただきました。

普段あまり触れる機会のない貴重資料ですが、書庫の中でただ眠っているわけではありません。貴重資料に今何が起きているのか、最新の動向をお伝えします。

## 大阪大学の貴重コレクション『適塾関係資料』

本学は数多くの貴重コレクションを所蔵していますが、ここでは本学の源流とも言われる適塾に関する資料をご紹介します。

適塾とは天保9（1838）年に緒方洪庵が創設した蘭学塾で、正式名は「適々斎塾」と言います。優れた蘭学者・医学者であった洪庵のもとには全国から入門者が集まり、『適々斎塾姓名録』には636名の門下生の名前が記載されています。これらの門下生には、慶應義塾創始者の福沢諭吉を始め、橋本佐内、大村益次郎、長与専斎など幕末維新期に活躍した人物が名を連ねました。

適塾で行われた教育は、蘭書（オランダ語の書）を数人で読み論じ合う、会読と呼ばれる方法が中心でした。この予習のために、門下生は一冊しかない辞書を奪い合うようにして勉学に励んでいたそうです。適塾は明治19（1886）年頃に閉鎖されますが、昭和17（1942）年に緒方家より国に寄付され、当時の大阪帝国大学が管理することとなりました。現在は、適塾記念センターにおいて適塾関係資料の収集や研究、目録の作成などが行われています。

## 適塾関係資料とは？

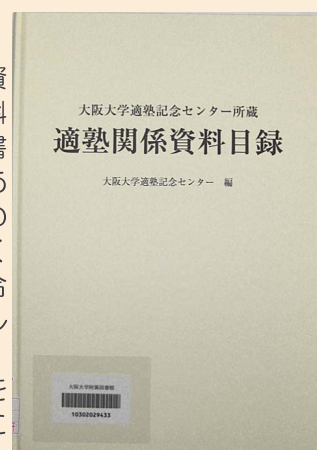
「適塾関係資料」とは、緒方家旧蔵資料、適塾関係収集資料、適塾門下生の家などに伝わる資料、附属図書館所蔵資料からなる資料群を指します。日本語資料に加えて洋書、書画、さらには薬箱などの道具までを含む多彩な資料群であり、蘭学・蘭医学関係の資料として、また緒方洪庵と適塾の塾生関係資料として大変貴重なものとなっています。長らく適塾の土蔵に収められていましたが、2012年に大阪大学総合学術博物館の貴重資料室へ移動し、保存環境が整えられました。

2015年3月には日本語資料4,332件、洋書資料160件を収載した目録が刊行され、適塾関係資料の全貌が初めて公になり、今後の研究活用の基礎ができました。現在はデジタルアーカイブによる資料公開が目指されているところです。

※図書館報37巻3号（2003年12月）では適塾関係資料について詳しく紹介されていますので、ぜひご覧ください。



現在の本とは装丁が大きく異なっています



『大阪大学適塾記念センター所蔵 適塾関係資料目録』2015年

## カビ対策

資料の大敵「カビ」。発生すると、カビ自身が資料を劣化させる以外に、カビを好む虫を呼び寄せて更なる被害を招きます。貴重資料の保存にはカビの予防が欠かせません。

カビは相対湿度が70%を超えると活発に繁殖するため、空調によって湿度を下げることで発生を防ぎます。しかし湿度を低くしすぎると、今度は紙の資料が乾燥してもろくなってしまうため、一般に55%前後の湿度を保つように環境が整えられています。

## 貴重資料の撮影・電子化

適塾関係資料などのいわゆる「貴重資料」の多くは、劣化を防ぐための環境が整えられた専用の資料室に保存されており、誰でも気軽に利用できる状態にはありません。そのような資料を公開し、広く一般に利用してもらうために、電子化の動きが広がっています。

附属図書館では、2015年7月～2016年2月にかけて、適塾関係資料及び懐徳堂関係資料の撮影作業が行われました。

右の写真は、デジタルカメラで資料を撮影するための機材一式です。映り込みを防ぐための暗幕、反射板、資料を設置する台、カメラ等で構成されています。今回の撮影は、この機材を用いた方法で行われました。この撮影方法は、カメラや照明を扱うための専門知識が必要である一方、縮率を変えられるなど、資料の状態や形態に応じて柔軟な対応ができるのが利点です。



大掛かりな機材を使って撮影しています

デジタルカメラによる撮影以外にも、ブックスキャナーを用いた撮影方法もあります。こちらは資料を設置する台と照明装置が一体となっているため操作が容易で、消しや歪み補正等の画像編集機能を備えるという特徴があります。このように、撮影する環境や対象となる資料に適した方法で、貴重資料の電子化が進められています。

## 貴重資料の発信

### ～「知」の活用としてのオープンサイエンス～

オープンサイエンスとは、研究成果や研究データをWeb上で広く公開し、容易なアクセスを可能にすることで、新たな学術研究へつなげていこうとする考え方です。その中には、オープンアクセス（学術雑誌論文などの研究成果を対象）とオープンデータ（実験データなどの研究データを対象）が含まれています。

この取り組みの一つとして、「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」があります。これは、あらゆる分野の古典籍30万点の画像データベースを構築し、国際共同研究を推進していくことを目的とするプロジェクトです。国文学研究資料館を中心に、国内外の大学等の研究機関が連携して実施しており、研究分野は人文科学全体、さらには自然科学まで及びます。本学所蔵の適塾関係資料や懐徳堂関係資料も、このプロジェクトの一環で撮影・電子化されました。

保存されている場所に足を運ばなければ見ることのできない貴重な資料は、世界に数多く存在しています。そういった資料についての研究は、かつては単なる資料紹介や報告が中心であった上、原本を簡単に参照することができないために、その妥当性を十分に検証することすら不可能な状態にありました。「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」では、誰もが原本をWeb上で利用できるようにすることで、新しい発見へと結びつけることを目指しています。研究に費やすことのできる金銭や時間の面での障壁を減らし、海外も含めて対等な研究環境を確保することが、さらなる研究の進展につながってゆくと考えられています。

## 古典籍の画像データベース

「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」で作成が進められている、書誌情報とデジタル画像をまとめたデータベースは、2017年4月以降の運用開始が予定されています。原則として『国書総目録』の収録範囲に準じて収集され、2015年3月末までで既に5万4千点の画像が作成されています。

古典籍は、同じタイトルの資料であっても一つ一つ内容が異なっている場合があり、各々の資料の画像データをそれぞれ作成している点が特徴的です。そのため、資料ごとに異なっている部分を、画像で見ながら比較検討することもできます。

また、プロジェクトの中心機関である国文学研究資料館は、所蔵する約350点の書誌と画像データを2015年11月からオープンデータとして試行的に公開しています。詳しくは資料館のWebサイトまで。

## 国立国会図書館 デジタル化資料 送信サービス

「国立国会図書館デジタルコレクション」をご存知ですか？

入手が困難な古い資料は、もしかすると電子化されているかもしれません。ぜひ「国立国会図書館デジタルコレクション」で検索してみてください。

このコレクションのうち、公開範囲が「国立国会図書館／図書館送信参加館内公開」となっている資料を附属図書館で利用することができます。

●利用場所  
・総合図書館 相互利用カウンター  
・外国学図書館 1階カウンター

●利用時間  
平日9:00～17:00

●利用できる方  
本学の学生・教職員

●利用方法  
カウンターで学生証または図書館利用者票をご提示ください。  
複写（プリントアウト）が必要な方は、所定の申込書にご記入ください。職員が複写し、お渡しします。

## 英語での研究発表をサポート ～取組みのご紹介～

本学で生み出される優れた研究成果。それをより多くの人々に届けるためには「英語で学会発表をする」「英語で論文を書く」ことが近道の一つです。附属図書館では、関係部署と協力しながら、英語で研究成果を公表するためのスキルアップの支援を行っています。その中から、今年度に行った取組みを二つご紹介します。

### TAと一緒に 英語を学ぼう！

英語での論文執筆や学会発表なんて自分にはまだ関係ない、と思っている学生のあなた。将来のために、今のうちから土台づくりをはじめませんか？

図書館では、皆さんの先輩にあたる大学院生のTA（ティーチング・アシスタント）が、さまざまな学習相談に応じています。英語の勉強方法についての質問にもお答えしますので、語学・研究留学についてや、TOEIC・TOEFLの対策についてなど、お気軽にお尋ねください。

図書館TAは、総合図書館、理工学図書館、外国学図書館にそれぞれ在籍していますが、特に総合図書館のグローバル・commons（C棟2階）では、英語に堪能なTAが皆さんをお待ちしています。ぜひご利用ください。

### 英語論文執筆スキルアップセミナー

会場で行われた図書展示の様子



2015年10月7日、「大型教育研究プロジェクト支援室」との共同主催で、「若手研究者のための英語論文執筆スキルアップセミナー」をコンベンションセンター（吹田キャンパス）にて開催しました。当日は400名近い参加者が来場し、英語論文執筆に対する関心の高さがうかがわれました。

講師には小野義正氏（理化学研究所創発物性科学研究センター客員主管研究員）をお招きし、日本人が英語論文を執筆する際におかしがちなミスや、査読評価をいかに

に取り入れて修正するかなど、より実践的な事柄についてお話いただきました。参加者からは好評の声が多く聞かれました。

また、これにあわせて、会場と附属図書館各館において、英語論文執筆に関わる所蔵図書の展示も行いました。図書館では小野氏執筆の『ポイントで学ぶ科学英語の効果的な書き方』（丸善、2008）をはじめ、多くの関連図書を取り揃えています。どうぞご利用ください。



超満員の会場

### 実践的な内容が好評

## Academic English Support Desk

グローバルに活躍する人材の育成を目的とした「マルチリンガル・エキスパート養成プログラム（MLE）」が、2015年10月から2016年2月まで、総合図書館A棟2階にAcademic English Support Desk（以下サポートデスク）を設置しました。

これは8月の箕面サポートデスクでのトライアル実施に引き続き、主として年度内に国際学会等で英語での研究発表を予定する全学の学生・教職員を対象に、英語ネイティブ講師が発表指導を行うというものです。1回50分、原則として全3回の受講で、講師と対話しながら英語プレゼンのスキルを身につけます。総合図書館の他に、吹田キャンパス（医学系研究科附属最先端医療イノベーションセンター棟）にも同様のデスクが設置され、曜日ごとに場所をかえて行われました。週に最大20名ほどが受講し、また、予約がない時間帯はオフィス・アワーとして、論文・レポートの言い回しや会話表現など、英語関連であればプレゼンに関すること以外の質問も自由に受け付けました。



日本語も堪能なGreening先生

学外からお越しいただいているNeville Greening先生は、日本国内の多くの民間企業・病院・製薬会社で英語を指導してきた、豊富な経験を持つエキスパート。良いプレゼンのポイントは「何よりもインパクト」だそうです。「阪大の皆さんはとても真面目でインテリジェントです」と印象を語られています。

今年度分の個人指導の募集はすでに終了しましたが、3月にはサポートデスクの一環で英語プレゼンのセミナーが実施される予定です。このセミナーや来年度以降のサポートデスクの実施の詳細については、MLE (multilingual[at]lang.osaka-u.ac.jp) までお問い合わせください。

### プレゼン成功の秘訣は「インパクト」

# あなたが選んだ本が図書館に ～学生選書 2015～

毎年恒例の学生選書。学生の皆さんの声を蔵書に反映させるために実施しています。今年度は2015年9月～10月に実施しました。多くの皆さんに参加いただき、約300冊の本を図書館に加えることができました（11月末現在）。あわせて開催した参加者交流イベントは、他学部の学生との良い交流の機会になりました。来年度はさらに多くの方のご参加をお待ちしています。募集は掲示やKOANにてお知らせします。要チェック！



本を直に見て選べるのが、店頭選書の魅力

## どうやって本を選ぶの？

一つ目は店頭選書。MARUZEN&ジュンク堂書店 梅田店 で実施しました。広い店内の思い思いの場所で、本を選んでもらいました。各自の割当金額をすぐにオーバーする人、なかなか達しない人、様々でした。買い物カゴを提げて、学術書を「大人買い」するのが楽しいという声も。

二つ目はWeb選書。丸善ナレッジワーカーという書店サイトを使い、約3週間の期間で、自分の都合の良い時間に本を選んでもらいました。2年連続で参加した方からは「前は店頭選書、今回はWeb選書だったが、それぞれに良さがあった」とスルドイ指摘をいただきました。

## どんな本が選ばれているの？

比較的軽めの本から学術書、中には洋書もあります（選ばれた本の一部を右コラムにて紹介しています）。参加者それぞれの視点から「この本を阪大生に！」という思いで選ばれた本です。そのためか、貸出率（ある特定の期間に1回でも貸出があった本の割合）は全体の平均を大きく上回っています。また、「阪大図書館 学生選書」でWeb検索すれば、2007年度からこれまでに購入した本を見ることができます。



Webを使って気軽に選書することもできます

## どんな人が参加してるの？

学部生・院生、学年は様々です。決められた募集期間に応募された方が対象です。

また、参加者アンケートの声をを受けて、昨年度から選書後に参加者交流イベントを実施。選書した感想や、本との接し方などをシェアしてもらいました。他学部の学生との意見交換から、新しい発見もあった様子です。



参加者交流イベントの様子

## どんな良いところがあるの？

自分の学習分野だけでなく、「色々な書籍の中から誰もが読みたくそうな本を探し出す作業がとても楽しかった」という声もありました。本を探しながら、「知らない良書を見つけたり」と新しい本と出会う機会にもなります。また、図書館蔵書という大学の環境整備に、学生の立場でコミットするというのも、あまりできない経験です。

## 担当者からのコメント

中には各自の予算をオーバーする人もいますが、選書理由をうかがった上で、なるべく購入し、蔵書を充実させるようにしています。

他の人の視点を意識しながら本を選ぶ良い機会です。次回のご参加をお待ちしています。（総合図書館・久保山 健）

## 選ばれた本の一部を紹介します

●コンテンツツーリズム研究：情報社会の観光行動と地域振興 / 岡本健編著

コンテンツツーリズムとは、アニメやドラマなどの舞台になった場所を訪れる一連の行動を、様々な学問的アプローチで研究することである。内容はコンテンツツーリズムの基礎や事例紹介だけでなく、実際の研究方法まで網羅し、まさにコンテンツツーリズムの最初の第一歩にふさわしい一冊と言える。

（経済・学部2）

●スケープゴーティング：誰が、なぜ「やり玉」に挙げられるのか / 釘原直樹編

大きな事件や事故、災害の後に起こる「スケープゴーティング」現象とは何なのか。人間科学研究科の釘原教授を中心とした社会心理学者が報道データと実験から分析した一冊。身近な題材で理解しやすく、社会のあり方についても考えることができる。

（人間科学・学部3）

●エリザベス朝史劇と国家表象：演劇はイングランドをどう描いたか / 佐野隆弥著

演劇における国家の表象に注目し、エリザベス朝演劇のイングランド観を浮かび上がらせる研究書。シェイクスピアの陰にかくれがちな当時の多くの史劇に触れることが出来ると同時に、演劇の研究手法の参考にもなる。

（文・M2）

●アフガン侵攻1979-89：ソ連の軍事介入と撤退 / ロドリク・ブレースウェート著；河野純治訳

アフガン侵攻を、旧ソ連側から、政治家・兵士達・民衆等多角的に抑制的な筆致で描く。現ロシアがシリアに介入しようとしている現在、学習・研究の基礎となる一冊である。特に、共産党政権を支援しているうちに、徐々に抜け出せなくなっていく過程が印象的である。

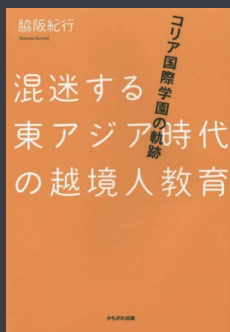
（高等司法・3）

# NEWS☆図書館からのお知らせ(2015.8～)

## 教員著作資料 ご紹介①

脇阪紀行著

混迷する東アジア時代の  
越境人教育  
：コリア国際学園の軌跡



(かもがわ出版、2015)

2008年、茨木市に創設された学校法人、コリア国際学園は「越境人の育成」を掲げて、従来の民族教育を乗り越えて、国家の枠にとらわれずにアジア、そして世界で活躍するグローバル人材の育成をめざしている。中高6年間の一貫教育では英語、コリア語、日本語のトリリンガル教育に取り組んでいる。在日コリアン社会からなぜ、このような学校が生まれたのか。その背景や歴史をたどるとともに、緊張する東アジアの国際関係の中で揺れる卒業生のアイデンティティや学校経営の葛藤を追った。

脇阪紀行特任教授  
(未来戦略機構 第五部門)

### 研究室・ゼミ対象の論文入手講習会 [総合図]

◆総合図書館では、雑誌論文の入手に必要な基礎知識を伝える講習会について、研究室・ゼミ単位での試行を開始しました。今年度は文学部を対象に希望を募り、合計3回を実施、のべ30名が参加しました。今後も充実を図り、卒業論文等の作成に必要な文献調査を支援します。

### 文献入手講座 [外国学図]

◆7月30日、11月12日、11月18日、外国学図書館1階くすにて「卒論・修論のための文献入手講座」を開催しました。雑誌論文の入手方法を中心に、論文収録誌の探し方から学外からの取り寄せ方まで段階的に紹介しました。12月18日には「先行研究調査に役立つデータベース講習会—引用文献検索ってなんですか—」を開催しました。引用文献データベース「Web of Science」を中心に、引用文献検索の方法を紹介しました。両講習会とも、個別相談会を同時開催し、参加者からは「検索の仕方など基本から学ぶことができ、参考になった」などの声が聞かれました。

### オープンキャンパス2015 [理工学・外国学図]

◆8月10日、工学部のオープンキャンパスに合わせ、理工学図書館では高校生を対象としてスタンプラリーやTA紹介などのイベントを行いました。入館者数は2,457名、館内スタンプラリー参加者数は988名で、とても賑やかな一日でした。また、外国学図書館では、8月11日の外国語学部のオープンキャンパスに合わせ、スタンプラリーや図書館ツアーを行いました。入館者数は590名、スタンプラリーには198名の参加がありました。

### 留学生対象図書館オリエンテーション [理工学・外国学図]

◆外国学図書館では、日本語日本文化教育センターと国際教育交流センターから依頼を受け、英語による図書館オリエンテーションを行いました。9月29日に141名、12月8日には29名の留学生が参加しました。また、理工学図書館では、10月8日の工学部の留学生オリエンテーションに合わせ、留学生を対象とした図書館ツアーを行いました。英語ツアーに40名、日本語ツアーには8名の留学生が参加しました。

### 映画字幕翻訳講座2015 [外国学図]

◆11月4日、外国学図書館4階AVホールにて、言語文化研究科・大阪映像文化振興事業実行委員会（アジア映画祭）主催、外国学図書館共催による「映画字幕翻訳講座2015」を開催しました。映画字幕の第一線で活躍されている字幕翻訳家・間瀬康子さんと、字幕制作者・堀三郎さんをお招きし、映画字幕の作成作業やDCI仕様のデジタルシネマについてご講義いただきました。参加者は81名でした。

### 天文同好会写真展示 [総合図]

◆11月5日～12月18日、大阪大学天文同好会が撮影した天体写真10点とその解説などを、総合図書館のB棟2階展示スペースで展示しました。11月20日に開催された天文同好会の「星座と神話の観望会」にあわせてもので、美しい星空や天体の姿が利用者の目を楽ませてくれました。

### 工学系の日本語論文の探し方入門・工学系の英語論文の探し方入門 [理工学図]

◆11月26日と12月1日に「工学系の日本語論文の探し方入門」、12月3日と8日には「工学系の英語論文の探し方入門」と題した講習会を、理工学図書館ラーニング・commonsで開催しました。日本語論文編は32名、英語論文編は30名の参加がありました。理工学図書館では新しい試みでしたが、「論文の探し方の基本を学べてよかった」など好意的な意見をいただきました。

## iPad館内貸出(試行)開始 [理工学・外国学図]

◆12月1日、理工学図書館と外国学図書館でiPadの館内貸出(試行)を開始しました。情報検索や電子ジャーナル・電子ブックの閲覧を手軽に行えます。iPadを使っていただいた方にはアンケートもお願いしています。2016年2月29日までを試行期間とし、その後本格運用する予定です。

## 見て聞いて、歌って、笑って！デンマークのクリスマス [外国学図]

◆12月24日、外国学図書館4階AVコモンズにて、外国語学部デンマーク語専攻、外国学図書館主催によるイベント、「見て聞いて、歌って、笑って！デンマークのクリスマス」を開催しました。外国語学部デンマーク語専攻の田邊欧先生、大辺理恵先生により、デンマーク語の絵本や写真、映画、歌などを通して、デンマークのクリスマスを楽しく紹介していただきました。また、デンマーク伝統のクリスマス・オーナメント作り体験もあり、学生をはじめ多くの近隣の方にご参加いただきました。

## TA講習会 [総合・理工学・外国学図]

### ◆総合図書館(ラーニング・コモンズにて)

- ・法律答案の基礎：事例問題を解く
- ・国際機関に興味がある人のために
- ・理系の進路を考える
- ・(参加型) ディスカッション「大学以降の勉強法について」
- ・自分に合った「留学」を見つけませんか？
- ・大学院進学か就職活動か
- ・メディア言説と世論
- ・How to brush up the report：レポートを見直す
- ・ボキャブラリの増やし方について(C棟2階グローバル・コモンズにて)

### ◆理工学図書館(ラーニング・コモンズにて)

- ・哲学カフェ「ヒトの寿命と医療技術」
- ・モータとクルマ
- ・エネルギー業界を知る
- ・ピタゴラス装置の世界：NHK『ピタゴラスイッチ』でおなじみ
- ・中国の少数民族：チベット民族
- ・ウェブページから必要な情報を抽出しよう！スクレイピング入門

### ◆外国学図書館(るくす(ラーニング・コモンズ)にて)

- ・英語座談会@るくす：テーマ「留学」
- ・映画で体感する激動の中国
- ・来るべき2045年問題
- ・<キャリアを考えるシリーズ>マスコミ業界を目指すあなたへ
- ・Wordと分かり合うために
- ・唐の都西安(シアン)を思う

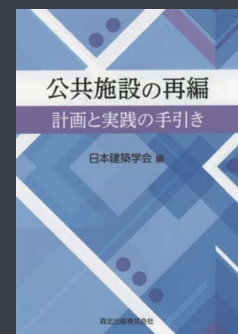
## 図書展示 [総合・生命科学・理工学・外国学図]

- ◆ブックコレクション(書評対決)[総合・生命科学・理工学図](毎月入替)
- ◆TA「Recommended Books」『夏だ！趣味(じぶん)を取り戻そう』[外国学図](7月～8月)
- ◆人体は美しいか 解剖図と絵画から見る身体 [生命科学図](8月)
- ◆大学で勉強するのはどんなこと 医学部のテキストを見てみよう [生命科学図](8月)
- ◆夏休みのおすすめ本 [生命科学図](8月)
- ◆なぜのか本@理工学図書館 [理工学図](8月～9月)
- ◆第3回「大阪大学特別教授」による講演会関連展示 [総合図・理工学図・外国学図](9月～10月)
- ◆若手研究者のための英語論文執筆スキルアップセミナー関連展示 [総合図・生命科学図・理工学図・外国学図](9月～10月)
- ◆第7回 専攻語図書リレー展示「ロシア語」[外国学図](10月)
- ◆秋は読書よね？ [理工学図](10月～11月)
- ◆第47回14冊の本棚「映画・字幕・翻訳夜話 14冊+α」[外国学図](10月～11月)
- ◆TAが選んだ本 [総合図](10月～12月)
- ◆ノーベル賞の世界2015ミニ [理工学図](11月～12月)
- ◆第8回 専攻語図書リレー展示「ドイツ語」[外国学図](12月)
- ◆第48回14冊の本棚「犬・猫・鳥、究極の選択！14冊+α」[外国学図](12月)
- ◆るくす特別展示「デンマークってどんな国？」[外国学図](12月)
- ◆羊から猿へ [理工学図](12月～1月)
- ◆水木しげるさん、野坂昭如さんを偲んで [理工学図](12月～1月)

## 教員著作資料 ご紹介②

日本建築学会編

## 公共施設の再編 ：計画と実践の手引き



(森北出版、2015)

近年、公共施設は施設の老朽化、施設利用の偏り、市町村合併による余剰施設の発生、自治体の財政難など多くの問題を抱えています。これらの問題に対して、これからの人口減少時代に対応した公共施設の再編が求められていますが、その方法は各自治体とも手探り状態です。本書は、公共施設の再編に向けた具体的な考え方や手法を解説するなど実践的な手引書としてまとめています。

伊丹康二助教  
(工学研究科)

# 図書館に響く歌声 ～アカペラコンサート開催～ クリスマスコンサート2015 a cappella night

音楽好きの  
皆さまへ

大阪大学の図書館にも、あなたの想像以上に音楽の本や雑誌、CD、DVDなどがあるんですよ。



理工学図書館の音楽雑誌

総合図書館には音楽に関する様々な資料が揃っており、外国学図書館のAVライブラリーではオペラや映画音楽に酔いしれることができます。生命科学図書館で「音楽嗜好症（ミュージコフィリア）」などの音楽と医療に関する本を読み、理工学図書館のラウンジで音楽雑誌をめくりリラックスタイムを過ごすことまでできるんです。ぜひあなたも、自分のお気に入りを探して音楽を楽しんでください。



附属図書館の蔵書検索へは  
こちらから

2015年12月21日、附属図書館とアカペラサークル「inspiritual voices」の皆さんが協力して、総合図書館6階図書館ホールにて「大阪大学附属図書館クリスマスコンサート2015 a cappella night」を開催しました。当日は雨が降って足元の悪いなか、学内外を問わず、多くの方が来場され、手作りの飾りつけで彩られた会場は大盛況となりました。

クリスマスソング、懐メロ、最新曲などバラエティに富んだ曲目で会場は大いに盛り上がりました。また、企画コーナーでは、クリスマスにちなんだ三択クイズが五つ出題され、全問正解した方には、素敵なプレゼントが手渡されました。会場で手拍子をしたり、小さなお子さんが歌声に合わせて踊りだしたりと、出演者と来場者が一体となって楽しい時間を過ごしました。

コンサート終了後には、サンタクロースに扮した出演者から参加者一人ひとりにお土産が手渡され、素敵なクリスマスコンサートの締めくくりとなりました。



コンサートのポスター



7組のグループが  
美しいハーモニー  
を次々と披露



三択クイズで会場  
中が盛り上がりま  
した！

## 「inspiritual voices」から皆さんへのメッセージ

私たちは大阪大学アカペラサークル「inspiritual voices」です。12月21日のクリスマスコンサートにたくさんの方にお越しいただいて本当にありがとうございました！ クリスマスということでクリスマスソングや仮装、ささやかなプレゼントなど楽しんでいただけたなら幸いです。図書館ホールでのアカペラコンサートは初めての試みで、どのようなお客さんが来てくださるのか不安もありましたが、学生だけでなく小さな子どもさんやお年寄りの方々にも足をはこんでいただき嬉しい限りです。アカペラに身近で触れていただけたのではと思います。学祭のステージやストリートライブでも歌っておりますので、是非聴きにきてください。

鈴木理沙さん（人間科学部2回生）



「inspiritual voices」の皆さん

Vol.49 No.2 通巻188号

2016年2月29日 発行

編集：大阪大学附属図書館

担当：岡田綾子、福永円、林英哉

久世さとみ、六車彩都子、小村愛美

井上直子、是枝奈美江

住所：大阪府豊中市待兼山町1-4

Web: <http://www.library.osaka-u.ac.jp/>

E-mail: [kohowg@library.osaka-u.ac.jp](mailto:kohowg@library.osaka-u.ac.jp)

Twitter: @OsakaUnivLib